

オリガミアンだより

第31号

2021年1月1日発行

この会報31号をもって年賀状の代わりとさせていただきます



新しい年が明けました。いろいろあった1年ですが、大切なことは、これからをどう生きるか、でしょう。丑年の1年は折り紙を通じていかに自己刷新が出来るかを追究しませんか。「折り紙をするようになって、じいじ（あるいは、ばあば）はどこか変わった」と思われればしめたもの。

今年も教室のお隣のひよどり台小学校の児童らに七夕とクリスマスのプレゼントをすることを考えています。こちらの方もよろしく。

新春折り紙講座 その1

皆さんの中に今年の年男、年女はおられますか。年男、年女に限らず今年の干支の丑を一生懸命、折っておられるのではないのでしょうか。そこでちょっとした新春折り紙講座を。

【折りぐせで勝負】

美しい仕上がりには出来る限り、余分な手間を省き、余分な皺が作品に残らないように考える必要があります。

例えばワンピース。「オリガミアンだより」第23号を開いてください。写真⑧で中央部に大きなダイヤ形の折りぐせをつけますが、この工程を真面目に



ぎゅうぎゅう詰めにならないように注意。「モー、その2頭、浮かれて濃密接触になってはダメ」



しっかり汗をかいてやっておくと写真⑨で二つに折り畳むだけで自然に両袖が出てきます。これが典型例です。⑧での作業が中途半端だと大きなダイヤ形を折ただけでは袖は出て来ず、引っ張り出すなど余分な作業が必要になり、余分な皺も出来て仕上がりは格段に見劣りします。



先日、教室で練習した「金の鶏」も同じです。あらかじめ対角線などに折れ線をしっかり入れておくことで、あとはどこを折らなくても自然に畳め、見ている方は、まるでテーブルマジックを見ているような気になり、場が盛り上がります。これも何個か折って習熟する必要があります。手抜きをすると子どもたちにもすぐ見破られますので要注意です。

【隅を丁寧に折る】

隅と隅の間は両隅がきちんと折れたのを見計らって折るようにしましょう。

【今どこを折っているか・完成形も思い浮かべて】

最終的に表側に出て来る個所には余分な折れ線やシワを出さないように工夫すると、より美しくシャープな仕上がりとなります。

(第32号につづく)

